

欧米文化に対する所感

＜はじめに＞

明治以降、われわれ日本人は欧米文化の吸收に国を挙げて取り組み、その質の高さに圧倒されてこれを崇めました。その態度は先の敗戦後も続き、いやむしろ劣等感を醸成するほどになっています。

しかし、果たしてわれわれは、欧米文化を無批判に採り入れてよいのでしょうか？

二つの観点について、所感を述べてみたいと思います。

I 表記について

1. 国名と国民名

私は繰り返して強く主張したいと思いますが、日本政府は諸外国に対して、自国や自国民の呼称を、JAPAN や JAPANESE ではなく、NIPPON、NIHON や NIPPONESE、NIHONESE とすべきことを正式に訴えるべきです。何故ならば、「JA」は、その発音が「邪」や「蛇」に通じ、これは日本人が忌むべき発音の用語であり、また、一部の外国人から、JAP などと蔑称される手掛かりを与えるからです。

スポーツ大会などで国名の略称を胸に付けて行進する際に、日本選手が JPN と略さなくとも、NIP や NIH とゼッケンに堂々と表示すればいいのです。トルコ政府の Turkey (七面鳥・・バカの意味がある。) から Türkiye への国名変更申請が、国連に受理されました。

既に 1600 年以上も前に、聖徳太子は、中国が日本の国名を「倭」、つまり背の低いという蔑称である「矮」を引用した漢字を用いていたのを、「和」に改めさせ、その頭に、大唐のごとく「大」をつけて「大和」とし、「やまと」と読ませました。中国に対しては、これは勇み足にはなってしましたが、「日出(いず)る国」の天子、書を日没(ぼっ)する國の天子に下す。恙(つつが)なきや」と胸を張ったのでしたが、「夜郎自大」と無視されることもありました。

わが国自らも、登記などの英語の呼称を、たとえば、日本航空株式会社が現在使っている JAPAN AIR LINES (略称 JAL) は NIPPON AIR LINES(略称 NAL) か NIHON AIR LINES(略称 NAL) に率先して改めるべきです。その点全日本空輸株式会社は、もともと英語名を ALL NIPPON AIRWAYS (略称 ANA) としていて立派です。また、同じように、サッカーの J リーグは N リーグに変え、政府等の官公庁や地方公共団体の正式英語名も、JAPAN ではなく

NIPPON か NIHON を用いるべきです。日本銀行は一万円札などに BANK という英語の使用すら避け、NIPPON GINKO とアルファベットで堂々と自己の名を表示しています。企業の定款に記載されている英語名も、同じように変更すべきです。

2. 人名

個人名を英語で表記する場合、欧米人のように姓が名の後に来る表記も改めるべきです。漢字文化圏の中国では英語表記の人名は、Xi Jinping (習近平) のように姓が先に来ます。朝鮮でも Kim Jong-un (金正恩) の如くです。日本では、なぜ安倍晋三を名刺の裏や、一般にも Shinzo Abe と表記するのでしょうか？ 欧米への追従です。

II 聖書 (BIBLE) について

私はここ数年、(財) 日本聖書協会が 1987 年に翻訳、出版した「旧約」1735 頁、「新約」557 頁 併せて約 2300 頁に及ぶ「聖書」(BIBLE) を精読しています。これまで何度も何度か目を通していったのですが、今回じっくりと、書き込みを入れながら熟読しました。

そこで得た私の結論は、この書は、文学的神話時代の創世記を除

いて、全編、反自然的な奇跡などを軸に展開していて、いわば虚偽事項を満載した書であるということです。

日本でも「天の岩戸」とか「天孫降臨」のような常識的には奇跡と見られる所謂「神話」が古事記に語られていますが、このような話は、どこの国にも自国の起源を誇る文学的な物語として存在しています。しかし、強制的に庶民を信じ込ませ、島原の乱の天草四郎のように、殉教で死ぬことを神の楽園に行けると賛美するような宗教の聖典とは異なり、文学的な書物なので害はないと言ってよいでしょう。その点では古事記は、キリスト教の聖書（BIBLE）やイスラム教のコーラン（KORAN）とは大きく異なります。

1. 旧約聖書

このような奇跡などの反自然的な虚偽事項は、一体だれが意識的に創作したのかというに、私はモーセであると断じます。彼は抑留中のエジプトから 60 万人余りのユダヤ人を連れ出し、追っ手を避けるため葦の海を渡り、シナイ半島にあるシナイ山に単身で登って、40 日 40 夜そこに留まりました。

下山してから、彼は神との間で十の契約をしたと語りました。その内容は、細かな約束を加えればかなりの数になり、日常的な細々

とした常識的な訓戒も多いのですが、しかし、葦の海を左右に分け
て歩いて渡ったことや神と十の契約を交わしたことは、反自然的虚
偽事項です。また契約とは対等の立場の者同士が交わす約束です。
強者（神）が弱者（人）と交わすのは、契約ではなく命令の授受で
あって、だからこそ戒律というのです。

しかし彼は神と対話して神の言葉を独占して語り、自分に都合の
良い予言を述べて一般民衆を誑（たぶら）かしました。換言すれば
神自身を彼が作り上げたと言ってよいでしょう。彼が作り上げた神
は多数であっては困ります。したがって一神教であり、一神教であ
るからこそ、この神は疑い深く、怒りっぽく、焼きもち焼きとなる
のは必然です。

そしてモーセは、彼の兄アロンとその子孫を祭司に任じて、レビ
人（びと）と称して祭事を独占させました。このレビ人が旧約聖書
を纏めたと私は推定します。さらに、当時からユダヤ人は文字を持
っていましたので、旧約聖書は、冗長で、重複や人名などの明らか
な間違いも見られ、さらに、神に油を注がれたと自称するイザヤな
ど多数の予言者が追随し、長たらし詩文を創作したり引用したり
で、反自然的虚偽を拡大させることに繋がりました。その点でも、

幸か不幸か日本では文字の普及が遅れていたため稗田阿礼に暗唱させ、数十年後にやっと文字により文章化された古事記を編んだ日本と、旧約聖書を編んだユダヤとは異なります。しかし暗唱させた天皇天武は、各豪族の家に伝わる私家の史書を破棄させ、別の意味で過去の日本史の相当部分が闇に葬り去れたという弊害もありました。

敢えて言うならば、欧米人の中でもこのような旧約聖書を、一字一句そのまま強く信じ込む一部のキリスト教徒はもとより、同じように旧約聖書を崇める一部のユダヤ教徒、また旧約と同根のコーランを信ずるイスラム教の中の一部の人々も、これまた反自然的な奇跡など虚偽から生じる弊害をばら撒く、要注意な人たちであると言わざるを得ません。

2. 新約聖書

新興宗教の布教者たちは反自然的な奇跡などを軸に活動を展開します。キリスト教は、東ローマ皇帝コンスタンチヌス大帝によってAD 312年頃公認されるまでは新興宗教として扱われ、多くの迫害を受けていました。新興宗教の布教者たちの言動は、ある程度は同情の余地があるのですが、しかし一般民衆を誑かすと言う点に

おいてはモーセやイザヤなどとは変わりはありません。

イエス・キリストもイザヤなどと同様、予言者のうちの一人です。しかし彼は、おそらくは仏教でいう一種の「悟り」を、山での単独の修行の結果得ていたと私は思います。彼は聰明かつ雄弁で、仏教の転法輪のような布教を積極的に行って、律法学者やファリサイ人（びと）などと呼ばれる、モーセの教えを信奉する長老たちの恨みを買いました。彼自らも、これらの人々には気を付けるよう警告しています。

果たして彼は、これらの人々や弟子のイスカリオテのユダに裏切られて、ゴルゴダで十字架につけられ死にますが、その間際に「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ（わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか）」と神を呪いました。ここに普通の自然人としてのイエス・キリストの本音を知ることができます。ユダだけではなく、神からも裏切られたと彼は理解したのです。それまでの預言者たちとは異なり、怖い神ではなく、愛のある神を積極的に説いたにも拘わらず、その神からも裏切られたと悟った彼の心情は思いやられます。

なお、このキリストの最後の言葉が神への不信感を示すと一般

に受け取られるのを恐れて、マタイやルカなどの福音書の作者や多くの人々が、旧約の詩編の一節などを引用して、この言葉が神への信頼を示唆する発言だと、何とか解釈を胡麻化せないかと削除なども試みていますが、結局は無理だったと聖書学の権威は述べています。

しかしイエス・キリスト自らは、新興宗教的な、病気を癒すなどの奇跡と呼ばれる言動の誇示を避けていたことは、新約聖書の描写からは伺えます。

奇跡の描写も彼の事績にたくさん出ていて、イエス・キリストを神の子とする個人崇拜も急速に高まりましたが、これら多くは彼の使徒と呼ばれる弟子たちの作り上げた一種の虚像であると、私は思います。私の言う反自然的な虚偽も、彼の死後、弟子でもあるパウロの、ローマやギリシャに至る数回の精力的な布教で、小アジアからパレスチナを中心に拡散しました。キリストを世に広めたパウロの功績は否定できませんが、私の言う反自然的な虚偽も、このパウロの布教で拡散されたものと私は見ます。

【付記】

欧米文化と対比する東洋文化を代表する書物の「論語」に見る孔子の言動は、聖書での預言者たちの言動とは全く違います。彼にも天はありましたが自らの言動を恥じないように謙虚に正す意味での、鏡としての天です。「怪力乱神を語らず」とか、「未だ人に事（つか）うること能わず。いづくんぞ能く鬼に事えん」と述べている通りです。

<おわりに>

「人事を尽くして天命を待つ」という言葉があります。そういう意味では、いわゆる無神論者と見做される人たちでも、「やる事は全てやった。後は運に任せるだけだ。」と天や神に縋りたい気持ちになります。また非常時に当たっては、「Oh, My GOD !」と思わず声を上げてしまいます。此処に私は、人知、人力の及ばない超自然的な宗教心の芽生えがあると思います。聖書について述べた際、「モーセやイザヤなど神に油を注がれたと自称する預言者たちが予め設定した、自然の摂理に反した虚偽事項を、強制的に信じ込まれ、生じる心が宗教心である」などと記しました

が、これは、自然発生的に生じた超自然的な宗教心には充分には
当て嵌まりません。

【補遺】

なお私は三界に家なくして、東京郊外の賃貸アパート三階に
一人で閑居する一介の老個人主義者ですので、国粹主義者などと
誤解なさらぬようご理解をお願い致します。

現在、いつの間にか進行していた肝硬変の最終段階の体調にあ
り、腹水が溜まり、「覆水盆に返らじ」と洒落のめして、「次の
盆まで持つかな？」と入退院を繰り返しているのが私の現状です。

岡 本 幹 輝

(2023. 1. 27)